

会 議 録

会議名	2024 年度第 2 回東浦町社会教育委員会	
開催日時	2025 年 3 月 27 日（木） 午後 2 時から午後 3 時 30 分まで	
開催場所	東浦町文化センター 視聴覚室	
出席者	委員	石原弘幸氏、平井伸幸氏、水野智美氏、鈴木達見氏、竹内元彦氏、鈴木浩美氏、藤原雅憲氏
	事務局	教育長、教育部長、生涯学習課長、中央図書館長、スポーツ課長、生涯学習課係長、文化財係長、中央図書館副館長、生涯学習課主事、生涯学習指導員
欠席者	松下玲子氏、二宮邦子氏、高崎義幸氏、	
議事	1 2024 年度の取組について 2 その他	
傍聴者の数	なし	
審議内容		
◆あいさつ 委員長 教育長 以降は委員長が議事を取り回す。 ◇委員長 次第に従い、議事を進める。議事 1「2024 年度の取組」について事務局からの説明を生涯学習課、スポーツ課の順に求める。 ◆事務局 ○生涯学習課の取組について、配付資料に基づき説明。 〈文化センターのポイント〉 ・上半期については、夏休みを中心に、子ども向け講座や親子講座を開催した。また、東浦町文化協会が講師となり、短歌や書道など、文化芸術に親しむ講座を開催した。 ・下半期については、定員の半数に満たず実施できなかった講座もあったが、マイプロデュース講座が多数開催された。 ・「東浦ミュージックフェスティバル」は、イベント自体も盛況であったが、高校生ボランティアが参加する等、青少年の育成や社会参加に有効であった。 ・「うの花音楽祭」は最後の開催となったが、幅広い年代が活躍し、盛況であった。 ・「落語を楽しむ会」も最後の開催となり、参加者が落語文化に親しんだ。 ・「二十歳のつとめ」は、19 名の実行委員が真摯に取り組み、出身中学校の垣根を超えて協力して準備を進めてくれた。責任感の芽生えや達成感を味わってもらえたと考えている。		

〈文化財・資料館のポイント〉

- ・今年度は日中仕事をしている方などでも参加できるよう、歴史講座や古文書教室を土曜日に開催したところ、土曜日だったので参加できたという方が何人かいた。
- ・7月8月には夏休みの子ども向け教室として、「古代の塩作り体験教室」「子ども昔体験教室」を開催し、定員いっぱい的人数が参加してくれた。
- ・春と秋の企画展とミニ企画展を4回開催した。ミニ企画展では、郷土の国文学者である久松潜一先生の生誕130年を記念し、中央図書館所蔵の資料を展示して紹介した。関連イベントとして、潜一先生のお孫さんである久松宏二さんによる講演会を開催し、祖父の思い出などを語っていただいた。

〈中央図書館のポイント〉

- ・郷土資料館と連携し、東浦町の文化的資産や歴史を取り上げて講座を開催して来た。久松潜一の生誕130年を迎えるにあたり、現代の万葉研究の第一人者である國學院大學文学部特別専任教授上野誠氏の講演会を文化センターで開催した。定員を上回る116名が、「万葉集のともしびー久松潜一先生に寄せてー」の講演会に参加。講演を通して、久松先生が残された言葉「脚下照顧」は、他者理解と自己を見つめ直すことの必要性を説き、後世を思い遣る言葉であったことを知る機会となった。
- ・読書感想文対策講座は、本の選び方、書き方、相談と3段階に分けて、読書好きな子どもたちに指導を行った。いずれの講座も定員を満たすことはなかったが、参加者は熱心に受講していた。2025年度は、本の選び方講座の対象を全学年に戻すなど工夫して開講する予定。
- ・事業・イベントの「デジタル絵本を作ろう！」では、相模女子大学学芸学部メディア情報学科の池下英恵教授に講師をお願いし、子どもたちがiPadのアプリ「BookCreator」を使ってデジタル絵本をつくる体験会を行った。子どもたちは自宅で原稿をつくり、夢を叶える時間を過ごしていた。作品はよむらび電子図書館で公開した。2025年度は、プログラミングの講座を予定している。
- ・秋のよむらび文化祭では東浦在住の焙煎士をお招きし「大人の時間：おうちで美味しい実践コーヒー講座」を行った。材料費として実費1,000円をいただく有料の講座にも拘わらず、14名の参加があった。
- ・今年度はじめての試みで、あいち県民の日ホリデーを実施した。文化センター、うのはな館と連携し、スタンプラリーを開催。図書館は「めざせものしり王！よむらびからの挑戦状」を開催。図書館の本を読み問題が解けた子には、台紙にスタンプを押し文化センターで景品と交換してもらった。

◇委員長

事務局（生涯学習課）の説明を受けて、委員の意見を募る。

◇委員長

昨年11月に、あいち県民の日ホリデーが実施された。うのはな館の催し物に参加させていただいたが、子どもたちのいい場所づくりになっていて、いいことだと思った。来年度も実施される予定か。

◆事務局

令和7年度も同様に計画していきたい。また、多くの親子に参加していただいたが、文化センターの会場がやや広すぎた感があるので、調整しながら検討を加えたい。

◇委員

中央図書館の夏休みの読書感想文の講座がいいということで、担当者が本校の3・4年生にチラシを配布した。全体では、参加者も少なかったようであるが、本校としては参加者が多く、また提出された感想文の数も多かった。ぜひとも来年度も続けていただきたい。

◆事務局

ありがとうございます。

◇委員長

自分も本を読むのは好きだったが、文を書くのは苦手であった。こういう講座があるのは素晴らしいことである。参加者が少なかったということであったので、来年度はもっとアピールしていただきたい。

生涯学習課へのさらなる意見がないことを確認し、続いてスポーツ課の説明を求める。

◆事務局

○スポーツ課の取組について、配付資料に基づき説明。

〈ポイント〉

- ・前期の講座・教室として、子ども向けの体操教室を年少から小学校1年生までの4教室を行った。例年同様、定員を超えた教室は抽選を行って実施した。
- ・東浦マラソンを12月15日に実施した。過去2年は大変風が強い天候であったが、風もなく、天候に恵まれ、最後の大会を終了できた。申込者1,699人のうち1,556人の参加があった。昨年に比べて308人の増加であった。内訳として、愛知県内の人々が98%で、そのうちの48%が町民であった。コロナ禍が明けて、参加者が戻ってくる傾向があり、これは近隣市町でも同様であった。また、前回に引き続きホームタウンパートナーシップ協定を結んでいるFC刈谷の選手をゲストランナーで招き、大会ボランティアで参加いただいた豊田自動織機東浦工場、東浦高校野球部・サッカー部等の皆さんとともに、ゴール者を迎えてもらったり、お楽しみ抽選会を手伝ってもらったりして50回節目の大会を無事終了することができた。
- ・来年度からは、走る方だけでなく、スポーツを始めたい人、今やっている人、大会で活躍している人の競技披露など、より多くの人に参加できるスポーツイベントを11月9日に東浦中学校周辺で予定している。前日予定の産業まつりとともに、町のさらなるにぎわいを創出して、多くの方に楽しんでいただきたい。

◇委員長

事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。

◇委員長

マラソン大会が最後ということで残念であった。コロナ禍明けで、参加者もだんだん増えてきた。来年度以降のマラソン大会以外の催しを考えていることなので期待している。

◇委員長

議事 1 へのさらなる意見がないことを確認し、審議終了を宣告。

議事 2 「その他」について確認する。

◇委員長

議事 2 「その他」の意見がないことを確認して、議事の終了を宣告。

議事終了後、社会教育委員による「社会教育委員研究報告」が資料に基づいて発表される。

◆事務局

次回の委員会について連絡。次回は、5 月に予定。日時は後日連絡。

備 考

なし